

# 【図画工作科】

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

○技能面では習得のための作業ではなく、楽しみながら着実に技能が身に付く造形活動を行うように努めた。  
 ○教科のねらいと本校児童の実態を考慮し、児童が考えたり、見通しをもったり、自分の判断でつくり変えたりしながら完成させる活動を通して、つくり出す喜びを味わえる授業を目指した。  
 △豊かに発想し、表したいことに合わせて材料や用具の特徴を生かして表す力の向上が課題である。

## 2 今年度の学習状況の分析に基づく課題

	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
学習状況の分析	どの学年も意欲的に取り組んでいる。特に新しい材料や新しい用具の活用等に高い関心を示し、積極的に自己表現に取り入れようとしている。	自分の生活経験や記憶を土台にした発想や、基本的な構想力はある。表したいことに沿って材料を選び、材料や用具を生かした発想を豊かに広げていくことは課題が多い。	学習した用具は根気強く使用し、安全に適切に使えるまで上達している。 材料や用具の特徴を生かし、様々な表現方法を組み合わせたりしながら表す創造的 技能の向上が課題である。	製作途中に友達同士でよさを認め合いながら、互いの表現を高めていく様子が見られる。 完成後の鑑賞会では、思いはあっても言語で表現することが苦手の児童も見られる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験、感覚、イメージを基に、児童が自分で表したいことを発想し、試しながら選んだり表したりすることができるようになることが課題。</li> <li>・各々の表したいことに合わせて、用途や美しさなどを考えながら、材料・用具の使い方を工夫して表せるようになることが課題。</li> </ul>			

## 3 授業の具体的な改善策

目標	<p>表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。</p>
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材設定は、児童の生活体験や思いを出発点にして取り組めるものにする。</li> <li>・作業上の注意点や気付きは考え言語化させてクラスで共有する。</li> <li>・作業手順は板書で短文や図で明記し、どの児童も見通しを持って製作活動に取り組めるようにする。</li> <li>・活動中は作品との対話を大切に各自で静かに活動させ、途中で気付きを共有して学び合う時間を確保する。</li> <li>・授業終わりに振り返りとクラスでのまとめを行い、最終的に各自が学びを深められるようにする。</li> </ul>
<b>学年段階別改善策</b>	
低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が身近な事柄や経験を基に、考え、取り組みたくなるような題材を選択する。また、一人一人の表現を認め、よさを伸長するような言葉掛けをしていく。(関心・意欲・態度)</li> <li>・導入時、考えやイメージを出し合い、材料や目標を確認してから取り組ませる。(発想や構想の能力)</li> <li>・児童に発問したり予想を言わせたりしながら、手本を見せ、それを基にイメージを膨らませ活動に取り組ませる。児童の主眼的な表現活動に対して、価値付けとなる声掛けを積極的に行う。(創造的な技能)</li> <li>・自他の作品のよさや面白さを、見付けたり発表させたりする時間を設ける。(鑑賞の能力)</li> </ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の思いや想像を基に、工夫しながら取り組めるような題材を選択する。(関心・意欲・態度)</li> <li>・思いや考えに合わせて活動し、材料からも新しい発想を得ながら、作品の世界が更に豊かなものになるよう、導入、資料や材料の準備、材料の生かし方の提示等を工夫する。(発想や構想の能力)</li> <li>・自分なりの美しさやよさについて試行判断し、それを実現できるよう制作時の用具の活用を示したり、発問や掲示物で示したりし、基本的技能の習得の徹底を図る。(創造的な技能)</li> <li>・自分や友達の作品の良さを認めることができる機会を増やせるよう、友達の作品の良いところを言葉で表現する場を作品ごとに設定していく。(鑑賞の能力)</li> </ul>
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の思い、経験、期待等を基に、発想しやすい材料やめあての設定を心がける。(関心・意欲・態度)</li> <li>・空間遣い、暮らし、日本美術や名画とのふれあいを取り入れ、児童が配置や奥行きを感じ、色の組み合わせによる強さを考えながら、経験を生かした表現ができるように指導する。(発想や構想の能力)</li> <li>・各自アイディアスケッチをし、活動計画を立てて活動させる。材料や用具の効果や可能性を確かめたり応用したりしている児童の活動は、クラスで共有し、個人の学習の学びを深めさせる。(創造的な技能)</li> <li>・自他の作品、親しみのある作品の良さや美しさを言葉で表現し、話し合うことにより自分の見方や感じ方を深められるようにする。(鑑賞の能力)</li> </ul>